



日不許
印翻刻

教林新報 第四號

明治壬申十一月 定價新貨三錢

西垣文庫 特
文庫10
7284
2



教林新報緒言

智^チ及^キラ^ズ 淬^チ磨^ルモ^シザレバ^バ 方寸ノ^ハ 百^ノ魔^ヲヲ^テ 研^ス断^スルニ^ハ 足^ラズ^キ 爰^ニ 人民^ノ 有生^ノ 始^ニ 良^キ 知^ル 良^キ 能^ク 天^ノ 賦^{アリ} ト^モ 雖^モ 情^ヲ 慾^ノ 所^レ 侵^ム 可^レ 啗^ム 一^端 ノ^ミ ナ^ラシ^テ 智^及 又^ク 銳^利 之^ヲ 断^スルニ^ハ 非^ズ バ 莫^ク 能^ク 其^ノ 真^ヲ 保^全スルヲ^ハ 得^ン 而^シテ 致^ス知^ルノ^ハ 功^ハ 性^ノ 理^ノ 學^ノ 專^心 循^到ノ^ハ エ^夫ニ^ハ 由^ルモ^シ 亦^ハ 聞^見 省^察ノ^ハ 裨^益ヲ^ハ 資^スル^ハ バ^カラ^ズ マ^ル 乃^チ 新^報 所^レ 載^ス 時^事 世^ノ 說^ハ 危^言 瑣^語ノ^ハ 如^キ 之^ヲ 玩^讀シ^テ 其^ノ 要^ヲ 得^バ 皆^ク 省^察ノ^ハ 裨^益タ^ラザ^ルナ^シ 然^レ 則^チ 是^ニ 由^テ 莫^ク 靈^ノ 性^ヲ 培^養シ^テ 明^敏ノ^ハ オ^フ 暢^發スル^ハ 一^助ト^スルヲ^ハ 得^バ 我^ノ 教^會ノ^ハ 素^志ニ^シテ^ハ 斯^ノ 新^報モ^ハ 智^及 又^ク 砥^石ト^スルニ^ハ 庶^幾カ^ラシ^カ

教林新報社記

西澤文庫



教林新報第四號

明治五壬申年十一月

○足羽縣より新田義貞小御崇祀と請ひ奉り度元福井藩知事源茂昭よりの願書共新田社新造営の入費

等と取調教部省へ出願相成候處有志之輩より出金を以て新祠相建候儀々不苦尤神号撰定更不可伺出旨指令あり

別紙願書畧

伏惟ルニ

朝廷御復古以來絶ヲ継キ癸ヲ興サレ就中
神祖以來上公卿ヨリ下民庶ニ至ル迄 皇國ニ功勞

教林新報

阿ル者之ヲ賞シ或ハ神号ヲ賜リ候儀實以聖明ノ至
千載之一日難有御事ニ奉存候謹按スルニ故左中將
義貞建武中興之始ニ方リ義兵ヲ起シ元兇ヲ誅シ
王室ヲ復興シ奉リ足利高氏ノ誅叛ニ及テモ亦首ト
シテ敵愾之志ヲ表シ東奔西走 王事ニ勤勞シ闔門
終始悉ク國難ニ殉シ候ハ之ヲ楠氏ニ比スレバ較優
劣有リト雖モ其忠貞義烈古忠臣ニ耻ズ近時御一新
ノ際ニ当リ百世之下風ヲ聞テ興起スル者勦カラス
人々大義ヲ知リ方向ヲ辨シ候モ未ダ必義貞ノ餘功
遺烈ニ由サルハ非ズト奉存候臣カ知ル所ノ内吉田

郡藤島ノ郷燈明寺村ハ義貞北伐ノ時城守ノ地ニシ
テ藩廳ノ北十七八町ヲ距ル村ノ田中ニ戰没ノ塚之
アル由ハ明曆ノ季年土人義貞ノ兜蓋ヲ田壤中ヨリ
掘出シ候ニ付愈義貞戰没ノ地タル確證ヲ承知致シ
萬治三年庚子三月臣十四世ノ祖先光通新ニ碑石ヲ建
テ其處ヲ表見候ハ元祿四年源光國カ楠正成ノ碑ヲ
造立致シ候ヨリ實ニ三十年前ニ御坐候其後元文ニ
年丁巳七月二日義貞四百年ノ忌辰ニ当リ候ヲ以テ
國內ニ於テ長壽祢念寺ハ義貞ノ遺骸ヲ瘞埋仕候地
ナルニ由テ幕府ヨリ白銀百枚ヲ供シ臣カ八世祖宗

矩ニ命シテ佛祭ヲ修セシメ、尔後天明七年丁未ヨリ
 天保八年丁酉マデ五十年毎々幕府ヨリ銀幣ヲ供シ
 祭典ヲ助ケ以テ恒例ト相成候然ルニ燈明寺村ノ死
 所ハ唯一片ノ苔碑而已ニシテ牧童畊夫敲火休擔ノ
 場ニ罷成候ニ付臣カ同性慶永入部ノ始ニモ石垣木
 戸等繕営仕置候何分多ノ年所ヲ經候儀ニ候得ハ風
 雨ニ^{カク}裂^レ致シ且當時不文ノ折柄年号ノ記載等モ不
 都合ノ儀有之乎ニ存セラレ旁以臣茂昭御一新ノ以
 前ヨリ思ヒ立竊ニ楠氏湊川ノ廟ニ^{カク}擬^レ石碑ヲ改建
 シ苟モ祠宇ヲ葺^キ當^レ坐^シ拜^スニ雨露ヲ避^ケ候様仕候夫

旧幕府ニ在テ已ニ前条ノ如レ况ヤ御復古ノ今日ニ
 方リ私ニ祀事ヲ奉^レ居候ハ 朝廷ニ對^シ恐多キ儀
 且百年ノ後終ニ廢絶ニ帰^レ候ハ遺憾ニ奉存候先達
 而來南朝ノ事跡ニ関^レ候諸選ノ者等彼是参考致シ
 候處已ニ御贈位官モ記載有之候得共當時兵馬^{コウバ}倥^{コウ}惚^{コウ}
 ノ際ニ係^レ候得ハ明證ハ無^ク之候伏願クハ
 朝廷義貞ノ忠烈ヲ眷^キセラレ大楠神社ノ例ニ準^シ更
 ニ神号ヲ贈^ラレ永ク御祀典ニ列^セラレ奉幣ノ御使
 ヲ下^シ賜^リ候ハ、義貞ノ忠覲地下ニ感戴可仕且士
 氣ヲ起^シ民風ヲ厚^クスルノ一助トモ相成可申奉存

候然ル上ハ臣茂昭奉職中歲時伏臘ノ祭ニハ郷ノ父
老ヲ率ヒ祠下ニ拜趨仕度志願伏而柳允裁ヲ奉希候
恐惶謹言

新田社新造営凡積

一金二千百二十二兩

本社拜殿廊下地築ヨリ皆出來込入費

一金三百二十兩

田面千坪埋立地平均マテ入費

ノ二千四百四十二兩

○愛知縣より教部省へ伺の畧ふ云管内神社寺院共

多数として例年追振の神祭仏事の外法談閑帳抔臨時
執行日夥敷就而ハ陋習も有之候は付自今臨時も勿
論追例の分りとも其事實至当の神祭仏事一兩度
と除くの外ハ不差許段届出たりし右陋習弊害相
除候採取締致候ハ勿論は候得とも神式仏法の祭事
閑扉等の儀ら事情取糺許し可有之且先般教導職被
差置追々説教閑延相成候ハ、人民職業の餘暇聴聞
致させ懶惰と戒め勉強と勸むる等の御主意は候
条教導職の者より説教の儀申出候ハ、無差支様聞
届可有之旨御達し有とり

○伯靈第九月九日土曜日大騒動を發し、其由來
 くる處る戸籍の正しきとざるよりして麥酒の價の
 狂ひより「ホツ」酒と造るの釀所を打毀したるは因
 巡邏卒刀を抜て烏群蝟集の中へ駈入りければ多く
 る逃散るゝれども其魁首を捕へ傷害も又少り
 ぶ裁断人及び關係の者一同翌朝別は瀋車に乗トセ
 子^ハ地^名を出發し「ベルン」^地名^名へ赴き、とり戸籍正
 しきとざるは弊害を生る事少なりとす

香港刊行中外新聞二千二百八十六号の抄記

其の少年常は賭博を好む或時所持の財品咸く打負

平素の妙手空々たり是は於て小妹と孤注と一再戦
 と促さんと之と賭友は高き曰く此度若負るば吾妹
 と與んと其人之と乞を何ぞ料らん盧と呼く盧應む
 雉と呼て雉鳴ず既は負て言釈る即ち賭友と妹と
 連出され計と議す妹元來兄と同居する不付其翌日
 車一輛を以て兄の宅に至り妹を誘き出して車の上
 へ拘り囚へんと欲せり然る所兄事あつて他出れ
 獨り家あり妹微く少年の風聞を悟り先立て他所
 へ匿る期に至りて少年賭友を導き車を引て兄の家
 へ至り門を敲けども應む怒て其門を推し倒して與

ふ入り又奥の戸を破りて入るふ嫂あせ卧ふして未ど起む
 少年炕上いんどうじやうふ衣衾よぎの堆たかまり在ると見て心窃こころひそふ喜び是
 必む妹ありと捆むすて之と車くるまに載せ賭友の家あそびに至り衾よぎ
 と開きて之を見れば妹いもうとは所ところなき死しふあしく
 とせし和尚わしやうなり胸の邊わきに微こほく温氣ぬるまあるのこ少年
 賭友あそび俱ともに驚き又為なす所ところを知しるをと按おさぐるふ和尚兼
 て嫂あせと姦淫かんいんし少年突然來ると事の發覺はつかくせしを驚
 き避る所無きを以て衾中あせに自盡じじゆんせしをあんと云々
 評曰少年固かたより制禁せいぎんを犯し加ふるふ其小妹を以
 て孤注こちゆと為す何ぞ不仁の甚こたしをや其生る妹を逸

し其死せる和尚と得以て困難と取る少年自みづかり以
 と招くと雖も天の報施ほうしする亦工たくまなりと謂べし
 和尚嫂わしやうあせと姦淫かんいんして其夫おとこを欺あやす亦天道の許ゆるざる所
 なり況んや和尚わしやう乃身みを以て自みづかり重戒じゆうけいを犯す罪尤
 大なり其立たつ所死しし就すなはちや宜あたり而しかして嫂あせ乃隱惡いんあく
 此を以て發露はつろす天の報施ほうしするや密ひそなりと謂べし
 小妹幼弱こせうじやく素罪すざいるし其毒手どくてを脱だてるる天又冥みやうの之
 が扶助ふじゆと為すや其夫おとこある者何と以て家門けあもんと辱はむ
 る此こに至る是又必かならず之と來きるの由よしあらん誰たれか天
 道てんどうと積たむと謂いふや嗚呼あゝ恐おそべきなり

○勢州向河崎町高橋権栄門と云へる者項日倭町
 教會の周旋掛りと勤一が週日説教終會の後不絶拜
 聴ふ出とり一者數十名自宅へ招き神饌へ酒肴を加
 へて之と興へ尚此後も無懈怠拜聴よ奉會もべき旨
 相互ふ約一たりと元來権栄門名搗米渡世の者一
 て平日家事質素を旨とせ一が敬神の意を奉戴一同
 志と高議神供米若干を寄附一猶教會の式日急雨乃
 為一聴衆の困却を厭ひ傘數十本を寄附せ一と好り
 鳥取縣参事某修驗宗之者帰籍方ノ儀建言有之ニ
 付正院ヨリ御下問相成候處教部省ヨリ廻答書如

此被差出候由

別紙御下問之趣了兼右ハ建言之通曰修驗ニ限り神
 佛混淆加持呪咀等ノ妖妄ヲ以テ職分トシ人ノ葬祭
 ニ関與スル檀越等モ無之啻々一般ノ愚民ヲ眩惑シ
 民風之興起ヲ破リ開明ノ進歩ヲ妨ル等利用厚生ニ
 益ナキノミナラズ其弊害不少ニ付先般廢宗夫々本
 宗へ歸人被仰出候上ハ專ラ天台真言兩宗ノ規型
 可相守ハ勿論世間ニ神変菩薩ト称スル後氏小角
 開業ノ法門一派ハ総テ廢停相成候儀ニ付右遺教ヲ
 固守シ曰修驗ノ所業ヲ以テ愚民ヲ盪惑致シ候者有

之節ハ地方官ニ於テ直ニ可取^ル紀^ノ答^ニ候處其^レ差置候儀ハ尤不当ノ儀ニ可有之且將來生活ノ目的モ無之者ハ^レ俗為致銘々ノ望ニ任セ授産ノ方法等周旋ノ一事ニ至テハ地方主宰ノ專務タル不待言ノ儀ニ付右等適宜^テ所分ノ見込相立當省へ具^ク狀^ヲ可^レ及答ニ兼而公布面中揭載ノ條^ハ款^ニモ有之候上ハ其旨ヲ以テ御諭相成度仍テ此段申進候也

教林新報第四号終

本局既ニ准允^ノ得テ此新報ヲ刊行セリ其趣旨前ニ述タル如シ若諸社諸山告諭又説教上ノ高論其他江湖ノ雜話ニ至ル迄^ハ負テ以テ教化ノ一端トナルベキ條件^ヲラバ必々報シ給ルベシ其書ニハ極テ住^ノ所姓名ヲ載セ給ヘ匿名ノ書ハ採入セズ蓋シ報告上^ノ擇^ノ規則ハ都テ日々新聞ノ例ニ倣フ然レモ賣藥及ビ醫品發賣ノ告條ハ記載セズ

官許教林新報本局

東京元大坂町
日報會社

諸國賣弘所

東京見橋通三丁目 須原屋茂兵衛 越後新瀨 荒川太司

同 通三丁目 山城屋佐兵衛 駿州靜岡七軒町 須原屋善藏

同 淺草茅町三丁目 須原屋伊八 尾列名古屋本町上丁目 萬屋東平

同 大傳馬町三丁目 弘文堂 甲品八日町 富士屋傳左衛門

同 神田鍛冶町 中外堂 勢島山田 藤原基左衛門

同 西京東洞院三茶上丁 村上勘兵衛 上及麻橋立町 下妻屋八郎

同 富小路通三茶下丁 須原屋平左衛門 若松大町三丁目 齋藤八四郎

同 大塚町通心齋橋東入 河内屋真七 陸前仙臺菟蓑辻 木村屋文助

同 武州横濱元弁天 活板社 武及忍山島 原田清太郎

同 東京川原石町 村上勘兵衛 相模小田原町花所 遠藤八

同 大坂本町 書籍會社 振前山形 市村五郎兵衛

同 同内平野町 清新堂 下懸流山加村京 增耳堂市三郎